

宮崎県総合博物館 第3期中期運営ビジョン評価表（令和2年度）

評価欄の数値は4段階評価数値

内部評価 4…指標を大きく上回った 3…指標を達成できた 2…指標をやや下回った 1…指標を大きく下回った

外部評価 4…期待以上できた 3…ほぼ期待どおり 2…やや期待を下回る 1…改善が必要

☆外部評価は、宮崎県博物館協議会委員による評価

(1) 調査研究

※ 内部評価の総合評価及び外部評価は、平均値の小数点第1位まで(第2位を四捨五入)

項目	評価指標		令和2年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		個別評価	総合評価	評価内容及び改善策	評価・意見	評価
1) 調査研究成果の公表	研究紀要の発刊	年1回	研究紀要1回	3	3.0	・3月に12論文・報告からなる「研究紀要第41輯」を発行できた。自然史では、県内で確認例の少ないメイタイシガキフグやタイワンクダマキモドキなどの個体の記録やササラダニ、エナシラッシタケなどの継続研究により生態等の解明に大きな貢献ができた。また、館所蔵の水晶についても含有物の解明ができ、産出鉱物の情報収集ができた。 歴史部門では水系別調査である五ヶ瀬川水系の遺跡の動態を俯瞰的に調査したものや宮崎の神楽について研究成果を特別展で公開するなど大きな成果が得られた。 ・次年度の研究紀要では、水系別総合調査研究（五ヶ瀬川・北川水系）の成果の一部の報告も掲載する予定である。	①着実に調査研究成果を上げられている。調査・研究報告会については、今後コロナ対策だけでなく遠隔地の参加希望者にも配慮し、リモートまたは対面・リモートハイブリッド型の開催も検討されてはいいかがか。 ②コロナ禍において『研究紀要』を発刊し、調査研究報告会を開催できたことは良かった。学芸課職員ができるだけ全員、投稿・発表できるとなおいと思う。 ③研究紀要を発行できたこと。内容的にも、県内確認例の少ない種等の確認ができて、継続研究により生態等の解明に期待できること。その他にも、宮崎の神楽の特別展では大きな成果を上げている。報告会はコロナ禍で制限があったものの開催した。 ④調査研究活動だけでなく、紀要発刊および報告会の実施が目標通りになされた点は、新型コロナウイルス感染症拡大で様々な状況が厳しい中で評価に値する。 ⑤調査研究発表会は、職員の方々の日ごろの研究の内容や成果、及び御苦勞を聞くことが出来るよい機会でした。 ⑥初めて調査研究報告会に参加させていただきました。職員の方々が、熱心に研究し、発表されている姿を見て、博物館での仕事、収集・展示だけでなくという事を改めて知る事ができました。ご苦勞、ご努力に心より敬服いたします。 ⑦目標を達成できており、評価できる。ただ、調査研究報告会について、指標が開催回数だけとなっているが、報告を行った職員の人数なども、指標に加えてはどうかと考える。 ⑧学芸課諸氏によるテーマに沿った現地調査や、研究紀要にまとめられた報告は、今後の地域研究にとって重要です。	3.4
	調査研究報告会	年1回	1回 (3/16開催)			・3月に職員11名が調査研究の結果や収蔵資料に関する内容、アウトリーチ活動に関する内容についての報告を行った。新型コロナウイルス感染拡大防止のため参加者を限定して実施し、職員23名のほか博物館協議会委員3名、文化財課職員1名にも参加いただき、所期の目的を十分に達成できた。 ・解説員との意見交換など、発表時間の関係で設定は難しいため、発表内容について、それぞれから意見や質問を聞いたりしている。		

(2) 収集・保存

項目	評価指標		令和2年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		個別	総合	評価内容及び改善策	評価・意見	評価
1) 収集・管理	資料の収集	2,500点 (年平均500点)	513点	最終年度に評価	3.0	・資料の収集、図書・文献の収集は目標値の年平均点数（以下 年平均目標点数という）を上回っている。一方で収集資料の整理、登録では、年平均目標点数を下回った。 ・資料収集の内容については、動物部門ではサンゴの一種のスジウミバラ属の標本、ノコギリクワガタ（雌雄モザイク）標本、アカイセエビ標本、スイジガイ標本、アカウミガメ剥製標本等希少な標本を収集できた。植物部門では県内の野生植物の現状を解明できるさく葉標本、カブタケのレプリカを収集できた。地質部門ではアメリカ産哺乳類化石本、宮崎層群高鍋層ボーリング資料、一般岩石標本、及び県産化石標本や鉱物標本、歴史部門では本田家資料、民俗部門では、能衣装、古文書などの収集を行った。 ・収集資料の登録では年平均目標点数を下回ったものの、今年度収集した資料に加え、過年度に収集した昆虫標本や生痕化石標本などの資料についての登録も進めることができた。 ・収集・登録した資料は適切な環境下で保存し、展示や体験用に活用する予定である。今後も引き続き資料の所在情報の収集や館外調査を実施し、重要な資料の収集に取り組むとともに、未登録資料の整理・登録を行う。	①目標をほぼ達成できており、評価できる。 ②コロナ禍、例年平均並みの収集を実施した。収蔵庫が手狭なところ、資料の登録を進めている。 ③総数としては目標設定を上回る点数の収集がなされており、指標は達成できている。収集資料は整理・登録することで様々な用途に生かされると思うので、改善策を講じた上で引き続き頑張ってください。 ④内部評価2ページ令和2年度実績の数値について、「資料の収集513点」「図書・文献1091点」「収集資料の整理・登録740点」とあって「合計3277点」とあるが、合算すれば2344点ではないのか？→修正いたしました。 ⑤新規資料の収集には偶然性があるろう。いっぽう整理・登録は計画を立てやすい事項なので、ぜひ整理・登録のほうをしっかりと計画的に進めてほしい。 ⑥5年計画の途上にありますが、コロナの影響の中こつこつと進めてください。 ⑦ほとんどの項目で、達成目標を上回る成果を上げている。 ⑧貴重な資料が収集され、整理された上で「宮崎県デジタルミュージアム」に登録され、一般の人が参照できることは重要です。	3.0
	図書・文献の収集	5,000点 (年平均1,000点)	1,091点					
	収集資料の整理・登録	5,000点 (年平均1,000点)	740点					
	合計	(年平均2,500点)	2,344点					
2) 保存	トラップ調査	年12回	12回	3		・本館では平成23年度からI P M（総合的虫菌害管理）の考えを取り入れた資料保存に取り組んでいる。令和2年度も全職員によるI P Mウォッチング、学芸課担当職員によるモニタリング調査を計画どおり実施することができた。併せて日常の点検を丹念に実施したことにより、虫菌害の発生を抑制することができた。 ・月に一度、学芸課職員による収蔵庫の目視、清掃を確実に実施することができ、適切な環境を維持することができた。	⑨適切な環境を維持している。 ⑩定期的な点検等により、常に適切な環境を保てるよう、今後も努力を継続して頂きたい。	
	I P Mウォッチング	年12回	12回					

(3) 展示

項目	評価指標		令和２年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		個別評価	総合評価	評価内容及び改善策	評価・意見	評価
1) 入館者数	本館入館者数及び民家園入園者数	年平均17万人	本館入館者数 56,194人 民家園入館者 50,539人	1		・本館の入館者数については、例年10万人程度で推移している。 令和２年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大により、夏の特別展、博物館講座やイベントなどが中止となり、例年と比べ、大幅に入館者数が減少し、目標値である17万人を超えることはできなかったが、民家園入館者数は、秋の特別展での利用などにより入園者がわずかに増加した。 ・開館50周年記念事業では、3月6日から7日の2日間に記念式典を始め、「民家園みやはく50感謝祭」「記念講演会」「招待演奏」「前庭イベント」様々なイベントに1,000名を超える来館があった。 ・常設展示室における資料入替え、1階エントランスホールや2階ロビーを活用したロビー展の開催など、様々な部門での展示やタイムリーな展示などを心掛けた。解説員による展示解説や団体案内などのサービスの向上やSNSを活用した情報発信を行っている。今後も引き続き、特別展をはじめ魅力ある企画を展開していく。 ・現在は、コロナ禍で厳しいが、今後の外国人観光客に対応するため、令和２年度は常設展示室のシアター英語字幕追加を行い、整備済みの多言語音声ガイドシステムやフリーWi-Fiとともにインバウンド対応を行っている。 ・例年好評である国重要文化財・県指定有形文化財の民家を活用した伝統文化体験講座をはじめ、神楽公演などの各種事業は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部中止となったが、3月に開催した開館50周年の「民家園みやはく50感謝祭」で民謡公演や琴演奏、昔話公演など多くの催しに来館者が参加できた。 ・令和２年８月から、民家園利用事業の対象を「伝統文化や民俗の伝承を目的とする事業」から「民家園を利用する事業」へ拡大した。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、利用の状況は6件と厳しい状況であったが、外国人の茶道体験や撮影のロケ地としての利用があり、今後多くの利用が広がるものと思われる。 ・今後も文化財の保護に留意しながら、広報等により民家園利用事業を周知し、利活用を一層進めていく必要がある。	①新型コロナウイルス感染拡大の影響で当館の提供するさまざまなサービスの利用者が、拡大前の平成30年度にくらべ3分の1～2分の1に減少している。そのなかで、完全休館した月はなく、一人の感染者も出さなかった点で努力と工夫がうかがえる。 ②新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う、特別展、イベントや講座等の中止により、入館者数の大幅減少は致し方ないところはあるが、SNSでの情報発信などの取組が見られ、数値には出てこない、担当職員の工夫、努力、熱意が伺える。 ③館内利用者への感染予防対策の徹底が図られている。 ④コロナ禍の中、民間園入園者の増加は、「民家園みやはく50感謝祭」等での工夫や努力の成果だと思います。また、特別展「みやぎの神楽」は、神楽の本注連と金幣を設置され臨場感あふれる特別展でした。 ⑤コロナ禍での展示については、大変ご苦勞があった事と推察いたします。コンサートや演劇等と異なり、一度に多人数が同じ方向を向いての集合体ではないので、こんな時こそ知識を深める施設として、利用して欲しいと感じました。 ⑥新型コロナウイルス感染症の影響下の厳しい状況の中において、民家園の入園数が増加したのは大変評価できる。また、特別展やロビー展では、工夫を凝らした内容での取組を積極的に進めており、目標を達成できたことも、評価できる。 今後も、今回のコロナ禍で得たことを教訓とし、事業の進め方等について工夫をし、安全を確保しつつ、少しでも多くの県民に利用してもらうための取組を進めて欲しい。 ⑦新型コロナウイルス感染症拡大の影響で入館者の目標達成には至らなかったが、常設展や特別展、ロビー展に関しては目標値に近い、もしくは目標値を超える回数が実施されている。厳しい状況下でも博物館としての活動を維持できるよう、コロナ禍での経験を生かして頂きたい。 ⑧新型コロナウイルス感染症の影響で、非常に厳しい状況であったと推察できるが、できることを努力されたと思う。開館50周年記念事業でも成果を上げられた。 ⑨入館者の大幅な減少は新型コロナ禍の中でやむをえないことなので目標数値対象外です。その中で、特別展やロビー展を数多く実施したことは評価されます。 ⑩コロナ禍にあって、入館者数等の確保には、大変御苦勞されていると思います。展示の「質」の向上に、引き続き御尽力ください。	
			合計 106,733人					

2) 常設展	展示替等回数	年15回	13回	2		・歴史展示室では、歴史部門が現代の名工の鐫を3回、昭和初期の音響装置を3回展示した。考古部門では、古墳時代後期の資料として八鈴鏡のレプリカと復元資料、石包丁の関連展示として砥石を1回展示した。民俗展示室では季節に応じた佐土原人形の展示を5回行い、閲覧者に喜んでいただく工夫をした。自然史展示室では、地質部門が方解石をテーマにした展示を1回行った。	⑪小学生（1、2年）の引率で展示物を見学したが、児童の興味を引くものばかりで（今さらながら）内容の充実に感心させられた。 ⑫コロナ禍で制約のある中、「みやぎきの神楽」特別展など内容の充実した質の高い展示が実施されていた。回数（量）ではなく、質を求めていることが重要である。 ⑬コロナ禍で厳しい状況であったにもかかわらず、10万人以上の来場者があり魅力的な展示だったと思う。開館50周年記念事業中も親子で楽しんでいる姿は微笑ましかった。 ⑭みやぎきの神楽は、協議会の際に観させていただきましたが途中退席したため後日改めて伺いました。とても様々な視点から説明されており展示の方法も素晴らしかったです。 ⑮特別展「みやぎきの神楽」は、宮崎の多様な神楽をうまくまとめ、しかもインパクト強く見せていた。貴重な文書あり、豊富なモノあり、工夫されたコトありで見応えがあり、宮崎の神楽の将来をも見据えた、記念すべき展覧会となった。可動マネキンと天蓋を組み合わせ、特徴的な舞の衣装や仮面、一瞬の動きのみならず、舞処の空間まで表現したことは、常設の民俗展示における民俗の営みをシーンとして再現するという特色との共通性を感じさせた。こうした展示コンセプトの一貫性に当館のこだわりがうかがえる。 ⑯特別展「みやぎきの神楽」はクオリティの高い素晴らしい展示であった。 ⑰特別展の内容や質も高く、来館者の評価も高く好評でありました。
3) 特別展	実施回数	年3回	主催事業 3回 貸館事業 0回	3	2.5	・主催事業として、巡回展「第40回S S P展」、本館の独自企画、「記念物100年展～守り受け継ぐため」、特別展「みやぎきの神楽－神々への感謝と祈り－」を実施した。夏の特別展として「モンスター水族館」を計画していたが、新型コロナウイルスの感染状況拡大のため、中止となった。これに代わり、「記念物100年展」を実施し、年3回の目標に達した。秋の特別展「みやぎきの神楽」は、県内の神楽を一堂に会し、展示したことで好評を博した。2月から4月に予定していた貸館による「ダンボール恐竜展」は新型コロナ感染状況拡大のため主催者側の判断により中止となった。 ・来場者の満足度は、アンケートによると「良かった」以上が「第40回SSP展」では91%、「みやぎきの神楽」では97%であり、高い評価をいただいた。	
4) エントランス・ロビー展	実施回数	年15回	21回	4		・1階のエントランスホール（エントランスケース、展示スペース、情報コーナー）や2階の民俗展示室前ロビーにて展示を、期間・内容・場所のバランスを取りながら、トピックや季節に応じた展示を全21回実施した。内訳は各部門の企画展示16件、県その他機関・学校の展示5件であった。各部門の展示に際しては、宮崎大学農学部農業博物館など関係機関2箇所より協力を得て実施した。 1月には、丑年にちなみ、自然史系、歴史系の6部門でそれぞれ「丑」に関わる資料を展示した「2021干支『丑』づくし展」を行った。また、2月から3月には開館50周年に関する展示として博物館の50年の歴史を振り返る展示やこれまで開催した主な特別展のポスターを展示した。	⑱「開館50年のあゆみ」展のうち開館当時の展示資料の展示は、いわば展示の展示で、その発想をおもしろく見た。 ⑲コロナ禍の中、内部評価にもあるが、様々な分野での展示やタイムリーな展示などを心掛けた。とあるように、職員の工夫が見受けられる。開館50周年に関するポスターの展示は懐かしく見学した。 ⑳コロナ禍で、入館者数減少は当然である。ロビー展の回数が随分多いが、この時期あまり無理されなくて良いと思う。 ㉑1階エントランスの活用により、印象が大きく変わった感じがあります。

(4) 教育普及

項目	評価指標		令和２年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		個別評価	総合評価	評価内容及び改善策	評価・意見	評価
1) 学校教育支援		年30回	年24回	2		・学校受け入れ校数は140校と前年度の203校を下回った。一方で今まで実績のなかった県内修学旅行として、36校受入れを行った。（県外２校） ・授業支援は、８校で実施した。小学生から大学生への支援などを含め、複数日、実施した学校もあり、支援回数は、昨年より２回増えて、15回であった。 ・教員支援については民俗部門と植物部門で対応し、佐土原小学校と高等学校教育研究会理科部会生物部会の２回行った。 ・資料貸出については中学校２校、高等学校１校、大学校２校への貸出しがあった。 ・職場体験学習受入は、中学校から３校の申し込みがあり、受入れ体制を整えていたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、辞退の申し入れがあった。 ・博物館実習受入は、２大学２人の実習生を受け入れ、新型コロナウイルス感染を留意しながら実施することができた。 ・今後も計画的に、学校教育支援に取り組むとともに、校長会や館で実施される職員研修会などの機会を通じて、博物館の学校支援のメニューや有効性、資料貸し出しの説明を行い、周知を図る。	①学校教育支援において、実績は目標値を下回る状況ではあるが、県内修学旅行での受入れ３６校は大変評価できる。今後も修学旅行、遠足、体験活動などでの受入が増えるといい。 ②学校支援では、既に実施されているのかもしれませんが、学校の実態に合った体験的な活動を増やすことや旅行業者への発信等で校外学習や修学旅行での利用につながるのではないのでしょうか。また、遠方の学校等には、オンライン講座も教育普及につながるのではないのでしょうか。 ③教育関係者の訪問は、「団体」になる事が一般的なので、利用は通常期より困難だったと思います。アフターコロナを期待したいと思います。 ④新型コロナウイルス感染拡大のため受け入れ回数や学校が減少しているのは、やむを得ないことだと思う。 ⑤団体来館が減少した中でもホームページの充実や広報活動に力を入れていることがうかがえる。 ⑥実績のなかった県内の修学旅行は今後も郷土を認識する学習として各学校に取り組んでいただきたい。 ⑦フィールドワークにとっても興味を持ちました。我が子にも是非参加させたいです。様々な年齢層をターゲットにして工夫されている所が、博物館としての在り方をとても考えられていると思いました。 ⑧児童・生徒の「学びの場」、「知的好奇心を探求する場」として、大いに期待しています。創意工夫を図りながら頑張ってください。 ⑨毎年、各種団体の利用状況の一覧表を興味深く見ている。どの団体についても多様性が大切と考える。学校団体については、やはり県央が中心だが、県北や県南からも来館している。前回の会議で、遠隔地の学校の来館はコストがかかるという問題が指摘された。補助金を期待できなければ、それだけのコストをかける価値があることを示すしかない。	2. 5
	授業支援		15回					
	教員支援		2回					
	資料貸出		5回					
	職場体験学習受入		0回 (０校)					
	博物館実習受入		2回 (2校)					
2) 展示解説	実施人数	年10,000人	4,610人	1	1. 3	・新型コロナウイルスの影響による団体来館が減少した影響もあり、展示解説を受けた人数は目標人数を大きく下回った。感染対策をしながら、人数を少なくして対応したり、解説できない時には、他言語音声ガイドを利用したりするなど工夫を行った。 ・また、コロナ渦の中で来館が困難な人たちのために動画を作成し、ホームページのコンテンツの充実を図った。 ・今後も来館者への声かけや事前広報に取り組み、利用者の興味や関心を高めるようなより分かりやすい工夫を行い、多くの来館者に展示解説を実施していくとともに、遠足等での利用を推進できるよう広報活動を実施していく。 ・50周年記念事業のプレイベントとして解説員が「スタンプを集めてバッチをゲット」、博物館の内容を問題にした「みやはく検定」、博物館の思い出を書く「博物館に大きな花を咲かせよう」などの取組を行い、小さい子ども連れの親子に大変好評を博し、報道関係にも多く取り上げられた。	⑩展示解説において、来館できない方向けに、ホームページに動画コンテンツをアップしたことはとてもありがたい。	2. 5
3) 博物館講座等	博物館講座等 (アウトリーチ活動含む) ＊博物館講座等は普及講座・特別展関連講座・民家園講座・「どこでも博物館」 ＊アウトリーチ活動は博物館外で行った講座の回数	年35回 アウトリーチ活動10回 ・講座等 ・伝統文化 ・どこ博	19回 4回 (15回) (1回) (3回)	1		・博物館講座等は、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、普及講座を23回予定したが10講座中止、特別展関連講座を６回予定したが４講座中止となり、全体で15回のみの実施となった。一部の講演は開催できる日程を模索し、50周年感謝祭に併せて開催できた講座もあった。民家園伝統文化体験講座は１回、どこでも博物館は３回実施できた。 ・４月開催予定であった名古屋大学博物館館長の講演会は、コロナ感染拡大防止のため中止となったが、開館50周年記念事業の中で記念講演として、リモート開催を行い、多くの方が参加された。 ・アウトリーチ活動は、講座等が中止となるなか、西都市、門川町、日之影町、高原町の１市３町で開催できた。 また、実施できた普及講座と特別展関連講座の受講者数は、前年度と比べ約33％にとどまった。これは、受講者人数を絞ったことなども影響しているものと思われる。 ・講座の回数もさることながら、博物館や宮崎の文化に、より興味をもつように誘う内容の講座を企画すると共に広報活動を工夫して継続していきたい。	⑪感染拡大を受けての中止措置の中でもリモート開催を計画するなど工夫がなされている。 ⑫「どこでも博物館」事業は遠距離の県民にとってはありがたい事業と考える。 ⑬新型コロナ感染症の影響により、学校教育支援やアウトリーチ講座などにおいて、実績が目標を大きく下回るのは、やむを得ないと考える。３年度も同じような状況が続いたが、今後に向けて、動画配信やリモート講座など、対面式によらない方法の導入を更に増やすなどして、教育普及の取組を進めて頂きたい。 ⑭博物館講座等について、地域バランスを考慮して開催している点は評価できる。全県民のための博物館なので、今後もその姿勢を大事にして企画・実施していただきたい。 ⑮コロナ禍において智恵を出して行ってきた様々な取り組みや経験を是非今後に生かして頂きたい。特に、リモートツールの活用は、宮崎県内のどこにいても博物館を教育普及において利活用できるチャンスだと思うので、今後に期待したい。	

4) 民家園の活用	民家園事業の実施 ・神楽公演等 ・みやざきの昔話 ・昔のくらし等 ・民家園利用事業 ・その他	年25回	16回 (2回) (6回) (1回) (6回) (1回)	1	・神楽公演は、10月に椎葉村の嶽・枝尾神楽、3月には、総合博物館開館50周年民家園春まつりで、椎葉村大河内神楽を実施し、多くの来場者があり好評であった。 ・毎週第3土曜日に開催している昔話公演は、新型コロナウイルスにより、全10回公演中、4・5・8・2月は中止になったものの、7月には特別に怖い話の特集し、幅広い年齢層に喜んでいただくことができた。 ・昔のくらし体験では、11月に内山こども園が民家園ボランティア協力のもと体験学習を行った。内容としては、脱穀機や唐箕など実際に昔の道具使った体験ができ、参加した園児には好評であった。 ・民家園利用事業については、新型コロナウイルスの影響を受けたものの、6団体に活用していただき、6回の利用があった。外国人の茶道体験や同人誌の編集会議など、伝統文化や民俗の伝承を目的とする事業から民家園を利用する事業へ拡大しつつある。 ・共催事業としては、レコード愛好会と10月にレコードコンサートを実施することができた。 和製のフォーク&ポップスをはじめ、移り変わる時代の思い出の流行歌や映画音楽を流して来場者に楽しんでいただいた。	⑯限られた中でのさまざまな工夫がなされていると思う。
5) 関係機関との連携	・職員の派遣 ・他機関からの職員等の招聘 ・視察や調査の受入 ・資料貸出、出版等掲載 ・資料の借用、他機関調査や視察共催事業の実施	年120件	118件 (12件) (16件) (10件) (41件) (39件)	2	・職員の派遣は自然史系を中心に植物分野と地質分野で学校教育機関に講師として派遣した。また、今年度より宮崎大学地域資源創成学部への依頼を受け講師派遣を行い、前年度より多い12件であった。近年それぞれの部門に対する講師依頼があり、極力対応し、協力できている。 ・関係機関等の職員の招聘では普及講座や特別展の中止など、招聘できなかったこともあり、16件と前年度を下回った。視察調査受入れや調査等も県外の往来などの自粛により前年度を下まわり、10件であった。館外資料の貸出しは12件、その他資料の館内利用や出版物等に掲載・放映された資料などは29件であった。本館が資料借用等で協力を得た関係機関は39件であった。 ・他館への調査など行き来は難しい状況であったが、リモートや電話等を活用するなど、情報共有や情報収集に努めてきた。	⑰項目は、福祉なのか、教育なのか、不明だが、内部評価には、幼稚園、保育園、認定こども園など就学前の園児たちの利用について明記されていない。年報には、P34～42に、利用状況が表記されているので、就学前の子どもたちに関連する内容を内部評価の評価・改善策に記載できないものか。 ⑱来館が困難な人のためにホームページのコンテンツが充実され、家で、学校で、博物館を楽しむことができる環境が整備され、大変役立った。福祉施設との連携は今後もぜひ継続してほしい。 ⑲大学生支援については、大学に行くことも重要ですが、どこかの時期に大学生を博物館に招くことも、館にとってはメリットが大きいと感じます。
6) 博物館と福祉施設との連携	福祉施設との事業実施 ・地域回想法 ・貸し出し	年80回	26回 (22回) (4回)	1	・「博物館で思い出を語ろう！」事業については、高齢者福祉施設の認知症高齢者を対象として、公募のあった3団体に、テーマ地域回想法を21回実施し、コース地域回想法は1回実施した。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、高齢者が来館することが困難となり、目標回数を大きく下回った。そのため、広報活動を重視し、今後來館してもらうための施設訪問などを行った。 ・福祉施設が自分の施設内で回想法を実施する際に利用していただくために、「昔の道具」や「おもちゃ」をパッケージにした「貸出キット」を2団体4回の利用があった。	⑳福祉施設との連携において、コロナ禍での高齢者の利用は大変厳しいものがあったと思う。目標値を下回ったのはやむを得ない。 ㉑「その他の団体の利用状況」の一覧表を見ると、利用する施設は何度も利用する傾向がある。数だけでなく多様性にも留意し、利用したことのない施設への働きかけをコロナ収束後も心がけていきたい。
7) レファレンス対応					・問合せは、年間約660件あり、最も多い内容がそれぞれの部門に対する質問で、約74%であった。もっとも多い問合せは、一般の方からだったが、マスコミからの問合せも多く、23%あった。	
8) 研究発表会の開催	研究発表会の実施	年1回	0回	1	・自然科学系の9団体で構成される県内研究団体の発表会を3月に計画していたが、実施場所の問題など、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を中止した。各団体との連携をこれからも継続しながら、県内の情報共有のハブとしてのかかわりを深めていきたい。	

(5) 情報発信

項目	評価指標		令和 2 年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		個別評価	総合評価	評価内容及び改善策	評価・意見	評価
1) 情報発信の充実	広報紙発行	年4回	4回	3		・広報誌「森の通信」を6月と9月の2回(68号・69号)発行、「博物館わくわく通信」を4月と10月の2回(vol.13・vol.14)発行し、県内の学校や博物館、図書館、公民館等の公共施設などに配布するとともに、ホームページにも掲載した。 ・博物館の情報を報道機関に提供する報道処理件数は66件であり、前年度よりやや減少したが、その報道処理等によりマスコミが報道した件数は、前年度を上回った。 ・今後も館内の広報推進会議で、新たな広報手段に取り組み、情報発信に努めていく。	①チラシ・博物館前の看板はインパクトを感じる。特に博物館前の看板は信号待ちの車内からも目を引く。 ②情報発信は良くできており、実績も十分だと思います。柔軟な発想の下、多くの県民の皆様に情報発信を行い、多様なネットワークができることを期待します。 ③当館の情報発信の充実は、「宮崎県総合博物広報戦略」と「広報推進委員会」の両輪に支えられているのだろう。何か課題があっても、すぐ討議できる体制が整っていることは高く評価できる。	
	報道処理件数	年50件	66件					
2) ホームページの充実	ホームページ更新回数	年60回	451回	4	3.8	・博物館ホームページへのアクセス数は、年1,132,039件となり、前年度より増え、目標値を達成できた。これは、更新回数が451件で昨年度より大幅に増えたこと、SNSにおいて、特別展や講座の様子、季節ごとの情報などを発信でき、情報発信手段として定着してきたことが要因と思われる。また、館内展示の様子を撮影し、動画を配信したり、「むーちゃん広場」で体験できるぬり絵などホームページ上にアップした。 ・SNSではタイムリーで博物館の身近な話題提供などを積極的に行い、Instagramでは年間114件、Facebookでは年間145件、ツイッターでは年間139件の投稿を行う事ができた。今後も博物館の全職員で効果的に活用していきたい。	④ホームページのアクセス件数の増加は大変評価できる。家庭に居ながらにして、情報をキャッチできる環境を整備していただいており、ありがたい。さらにSNSもタイムリーな情報発信に努めており、高く評価できる。 ⑤コロナ禍の中、情報発信の工夫や努力が分かりました。特にホームページの更新回数やアクセス数の増加を見れば、様々な工夫や魅力的な発信となったことが分かりました。 ⑥久しぶりにホームページを検索してみると、新しいデザインになっており、とても見やすくなっていました。特に、トップページがキャッチーで興味をそそられます。加えて、FacebookやTwitter、Instagram等も対応しておられるようで、若い方々にも受け入れ易くなっていると思いました。 ⑦ホームページを含めてSNSは、いかに頻繁に書き換えをするかが、閲覧者を増やすキモだと思います。担当者は大変だろうと思いますがよろしく願いいたします。 ⑧コロナを逆手にとって、積極的かつ効果的に情報発信を勧められており、高く評価できる。 ⑨委員をさせていただくようになってからホームページ、またSNSをチェックしましたが、フォロワー数は今、影響力を可視化している指標となるので、投稿の数ではなく内容の工夫が必要かと思います。 ⑩ホームページの更新やSNSでの情報発信に積極的に取り組んでおり、またホームページのアクセス数も増加するなど、その取組は大いに評価できる。引き続き、インターネット活用等による情報発信の充実強化に取り組んで欲しい。 ⑪発信の工夫努力により、アクセス数が増加し、理解や関心の高まりを感じます。 ⑫コロナ禍の状況下にもかかわらず、平成30年度とくらべホームページへのアクセス数は41万件余りもふえている。その間のコンテンツの充実の結果と評価するとともに、外出制限下の電子媒体の有効性がうかがえる。	3.8
	ホームページアクセス件数	年500,000件	1,132,039件	4				
	SNS投稿回数 ・insta ・FB ・twitter	年300回	398回 (114件) (145件) (139件)	4				

(6) 経営

項目	評価指標		令和２年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		個別評価	総合評価	評価内容及び改善策	評価・意見	評価
1)博物館協議会 や県民の意見の 尊重	アンケート 収集件数	年2,000件	1,172件	1	2.5	・アンケート収集件数については、新型コロナウイルスの感染拡大により、夏の特別展「モンスター水族館」が開催できなかったこと等により、収集件数は減少したが、回収率としては、令和元年に近い状況であった。 ・本館サービスに対する満足度は集中アンケートも年間を通したアンケートもともに94%となり、目標を達成できた。 ・今後もアンケートの積極的な回収に努め、利用者の意見を館の運営に活かしていく。 ・情報室の親子で楽しむ「むーちゃん広場」は、協議会の意見を踏まえ、12月より土・日・祝日も開催するようになり利用者が増加した。 ・また、協議会の意見を踏まえ、県内の動植物の現状を県民に知らせるため植物ではこれまで「今月の花」の紹介をしていたが、県内にみられる絶滅危惧種の植物の紹介を始めた。	①アンケートの満足度が94%というのは非常に高い数値であり、高く評価できる。ただ、6%の方は満足できていない（やや満足できないなど）という回答であるが、どのような意見が出たのか、知りたい。少数意見も大事である。 年報のP74～75にアンケート結果が帯グラフ付きで掲載されているが、①個人アンケート（ウ）本館サービスに対する満足度についてのみ、文章表現のみの記載である。 ② 新型コロナウイルス感染拡大のため、アンケート回収率も目標達成には至らなかったようですが、満足度が高くなっていたことは経営の工夫や充実の成果だと思います。シナリオのない避難訓練等、危機管理体制の強化に向けての意識の高さが分かりました。 ③職員の資質向上のための研修や危機管理のための訓練にしっかりと取り組んでおり、この取組が、来館者アンケートの「本館サービスに対する満足度」が、昨年度より高い94%という数字に繋がったと思われる。 なお、来館者アンケート結果は5年間分程度の結果を、経年比較し、分析したものをまとめて、示して欲しい。 ④職員一人ひとりがアンテナを高く、広く張りながら、様々な県民の皆様の声を経営に反映させる努力を続けてください。職員の資質向上にも引き続き力を入れてください。 ⑤新型コロナウィルス感染症拡大の影響を考慮すれば、目標値に到達していないものもあるが、概ね指標は達成できていると評価できる。 ⑥意見を採り入れての改善が進められていることに、敬意を表します。心の安定が求められる昨今の状況下、くらしの歳時記的な、県内の四季の自然、地域の暮らしや仕事、行事、芸能等の紹介コーナーもよいかと感じました。 ⑦コロナの影響でやむを得ない中止等はあったが、新しい試みもあり、アンケートでは高い満足度を得ている。	
	集中アンケート実施回数及び満足度	年4回 満足度80%	3回 94%	2				
	全体満足度	80%	94%	3				
2)職員の資質向上	研修の実施と参加	年20回	16回	2	2.5	・全職員を対象とした基本研修では、コンプライアンス及び危機管理等について、4月、1月に実施するとともに、3月には学芸課職員による調査研究報告会を研修の機会とし、年3回実施した。 また、県外研修等として、関係職員が学芸員・事務職員研修会や学芸員技術研修会などに参加し、職員の研修機会の確保と資質向上を図ることができた。 ・展示解説員の研修として、日向市を訪れ、植物、地質、民俗などの実地見学、50周年記念事業で実施した「みやはく検定」の問題集や解説集の作成を行い、知識の習得に努めた。また、1年目の職員に対して、各分野の発表研修、3年目の職員に対しては、自己学習内容の発表研修を行い、資質の維持向上に努めた。 ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による各種研修会の中止などで目標値を下回った。 ・今後も引き続き館内外の研修の機会を確保し、職員の資質向上に努める。	⑧コロナ禍で感染防止対策を推し進めた中で、職員や展示解説員等の研修を進めている。一方、外部運営資金の獲得も行い、特別展「みやぎきの神楽」では、支援を受けて展示内容を充実した。 ⑨当館の調査研究発表会に参加したとき、発表者が、「宮博の魅力って何だと思えますか」と質問を発した。私は少し考えて「展示解説員が活躍していること」と答えを出した。予算不足、展示の考え方等で展示解説員を置かない博物館も多い。しかし、展示と来館者を結びつける点で展示解説員は大きな役割を果たしていると考え。今後も、彼らの潜在力を引き出し、じっくりと養成する関係を大切にしたい。	3.1
3)危機管理体制の強化	防災訓練	年2回	3回	4		・4月に、全職員を対象とした危機管理マニュアル及び消火活動に関する研修を実施、7月、9月には地震や火災を想定したシナリオの無い避難訓練を実施、3月は宮崎北消防署立会いの下、埋蔵文化財センター分館職員及び民家園ボランティアと合同の防火訓練を民家園において実施するなど、職員の危機管理意識やスキルの大きな向上が図られた。 ・今後も、利用者の「安全」「安心」の確保のため、危機管理体制の強化に努める。	⑩危機管理体制の強化において、防火訓練、避難訓練など、防災対策は計画的に実施され、評価できる。万が一の対応で、入館時に発熱者がいた場合（コロナの陽性者が疑われる場合も含め）や体調不良者がした場合、AEDを使用する必要が生じた場合、不審者が入館した場合など、危機管理マニュアルは整備されていると思うが、様々な危機への対応シミュレーションは利用者の「安全・安心の確保」のためには必要だと思う。 ⑪貴重な展示物の危機管理は大変なことと思います。職員の方のスキルの大きな向上とこのこと、今後も気を付けてお願いいたします。	

4)外部運営資金の獲得	外部運営資金への応募件数 *県基金、公共機関助成金・補助金、民間の助成金・補助金	年2件	2件	3	・夏の特別展「モンスター水族館」での外部資金として公益財団法人日本海事科学財団の「海の学びミュージアムサポート」へ申請を行い、「海の企画展サポート」として支援を受けた。 しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響から特別展の中止を余儀なくされたため、中止決定前の準備に要した経費を除いて、資金の活用は出来なかった。 ・秋の特別展「みやぎの神楽」では独立行政法人日本芸術文化振興会に助成金申請を行い、支援を受けた。地域文化施設公演・展示活動の支援を受けたことで展示内容が大幅に充実し、来場された方々への満足度を高めることができた。	⑫博物館のような業態は、資金調達は大変だと思います。他の県立の施設のように「ネーミングライツ」を利用してくれるような業者があると良いですね。 ⑬外部運営資金、これからも活用して展示活動に動きをつけてください。 ⑭県の財政のこともあり、助成金などの活用で工夫されていると思います。今後も低コストで出来るものとそうでないものでバランスを図り楽しませていただけたらと思います。 ⑮外部運営資金の応募と獲得をされたのは大変良かった。日本芸術文化振興会からのほうは展示に生かせたとのこと。こういった資金については、金額を明示してほしい。
その他のご意見						①収集資料が増加してゆけば、今後収蔵についての課題が生じてくるのではないかと懸念している。貴館には昭和46年の建設当初の設備のままのところもあり、50年を経過して不備も生じているのではないか。この間、保存についての科学技術は大きく進歩している。自治体の財政は厳しいだろうが、貴重な文化資源を将来の県民へ受け継ぐため、また国宝等の展示を可能として県民に供するためにも、館の建えられることを要望したい。 ②新型コロナウイルス感染拡大が収まらないなか、開館50周年記念事業が無事に実施されたことは喜ばしい出来事であった。式典に参加した折、人びとで賑わう館内や前庭の様子に接し、日常の光景であるはずなのに夢の1シーンように感じられた。この不思議な感覚を忘れまいと思う。式典で上映された映像では、館の運営を支えてくれている人たちへの感謝の思いが強調されていて好感が持てた。警備員の方がヒーローのように映し出されたときは、胸がジーンとした。